



子どもの脳は、

「3・7・10歳」で変化する

「子育ての理論は理解できても、実際に子どもはそのとおりには育ちません」「同じように育てたつもりなのに、兄弟・姉妹で、勉強やスポーツの得意、不得意などの違いがあるのはどうしてですか」「早期英才教育で成功例もあるのに、ウチの子はかえって勉強嫌いになっしまいました。なぜでしょうか」。読者のみなさんにも、「あるある」と共感できる悩みがあるかもしれませんね。

それは、これから述べる「子どもの脳が求めている3つのこと」を理解していないために起こる現象です。子どもの教育のために「よかれ」と思っていることが、じつは子どもの脳の成長や進化を妨げ

ていることは、決して少なくはありません。

その3つとは何かについて、話を進めることにしましょう。

人間の脳機能は、成長するに従い、脳のもつ本能と共に変化するという独特のパターンをもっています。このため、大人には通用する「頭をよくする方法」であっても、年齢によっては必ずしも有効とは限らない、ということが起こります。うまくいったり、いかなかったりすることによって、「子育てには正解がない」とか、「理論どおりに子どもが育つわけがない」といった考えが蔓延まんえんしているのは、多くの人が子どもの脳の発達について、正しい知識と理解をもっていないせいではないでしょうか。

本章では、子どもの年齢別に起きる脳の特徴的变化をまとめて紹介し、子どもの脳を成長させるために不可欠な本能との関係など、もつ

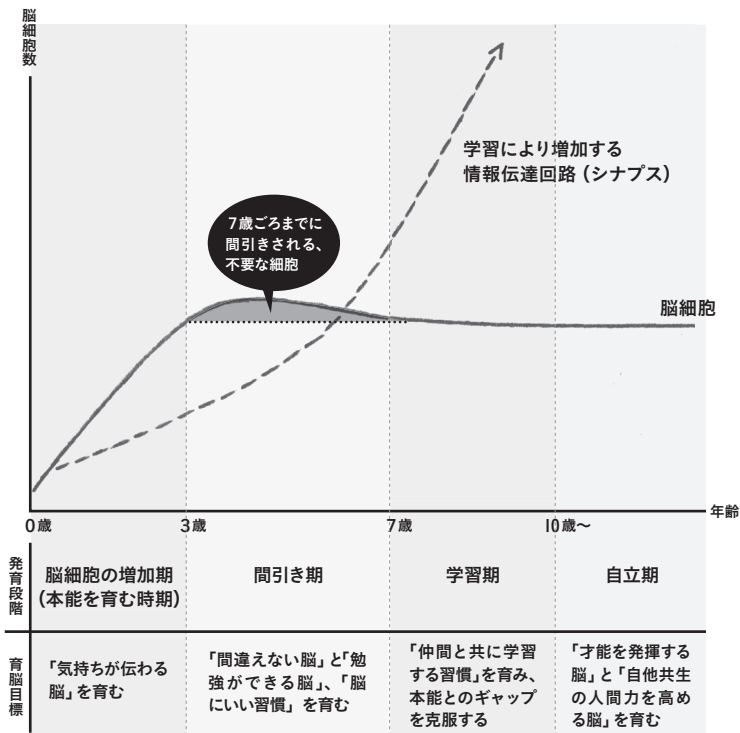
とも大切なポイントを紹介することにします。

子どもの脳は、4段階の発育プロセスをもっています（図⑪）。

**第1段階は、0～3歳。**この時期は脳の細胞数が増えるため、「機能・構造の成長期」といえます。**第2段階は、3～7歳。**脳に悪い習慣を断ち切る間引きという現象が起こり、神経回路の質が高まっていく成長期です（間引きについては、201ページから詳しく説明します）。

**第3段階は、7～10歳。**自分でやり遂げることによって、勝負にも強くなる、「文武両道の才能」を発揮する成長期です。**第4段階は、10歳以降。**この間は、子どもから大人に移行する人生の変換期に相当し、さまざまな神経ホルモンの発達によって、受験や競争などの社会的な壁を越えていく力が生まれる時期。それらの成功体験を積み重ねながら、素晴らしい才能をもった大人になっていきます。

図① 子どもの脳の発育にみる「4つの重要期」



子どもの脳は、4段階の発育プロセスで成長します。0～3歳までを【脳細胞の増加期】(本能を育む時期)、3～7歳までを【間引き期】(脳の発達に悪い習慣を排除する時期)、7～10歳までを【学習期】(勉強をすることで、情報伝達回路を増やす時期)、10歳以降を【自立期】(自分で考え、達成する時期)とし、その間に起こる脳のしくみをまとめました。子どもの脳を育むには、その時期に合った子育て、習慣づけが重要になります。

このような子どもの脳の発育プロセスをふまえて、素晴らしい子育てをするためにはどうすればいいのでしょうか。本章では、0〜7歳の子どもの「脳が求めているもの」に重点を置き、考えてみましょう。